

⑫ 公開特許公報(A) 平1-230853

⑤ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)9月14日

E 04 D 1/30
1/34E-7238-2E
E-7238-2E

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全6頁)

⑭ 発明の名称 隅棟先端瓦台座

⑯ 特 願 昭63-57630

⑰ 出 願 昭63(1988)3月11日

⑱ 発 明 者 釣 場 嘉 人 宮崎県宮崎市大島町平原935番地 5

⑲ 出 願 人 有限会社かわら技研 宮崎県宮崎市大島町平原935番地 5

明 細 書

1. 発明の名称

隅棟先端瓦台座

2. 特許請求の範囲

(1). 隅棟先端部に敷設する、防水性シートからなる通水帯(1)とその両側端部に止水堤(2)を有し、さらに望ましくは裏面前端に位置決めのための下縁突条(3)と裏面に横木座(4)を設けてなる隅端シート(B)。

(2). 中央突条(5)とその両側に切隅瓦(K)を受ける切隅受座(6)からなる瓦受台(C)を、請求項1記載の隅端シート(B)に横置固定してなるベース台座(D)。

(3). 請求項1記載の隅端シート(B)と請求項2記載の瓦受台(C)を、あらかじめ付加形成させてなるベース台座(D)。

(4). 請求項1記載の隅端シート(B)の裏面、または請求項2もしくは請求項3記載の隅端シート(B)部分の裏面に、スペーサー(7)を付加形成させてなるベース台座(D)。

(5). 請求項2または請求項3もしくは請求項4記載のベース台座(D)を隅棟先端部に敷設し、切隅受座(6)に切隅瓦(K)を横置し、中央に隅巴受(X)を横置して中央突条(5)を介して横木(8)に釘止めあわせて切隅瓦(K)の固定をもなし、隅巴受(X)上に隅巴瓦(Y)を横置して横木(8)に釘止めして、さらにその上に隅鬼瓦(Z)を横置して支持金具(9)を介在させて横木(8)に固定してなる隅棟先端瓦台座。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

屋根隅棟先端部において、粘土台を構築することなく未熟練者でも容易かつ迅速正確に隅棟先端各瓦を横置構成でき、耐腐蝕性耐久性にすぐれ屋根材の腐朽問題のない固定構造を有する隅棟先端瓦台座に関する。

〔従来技術〕

従来技術(1)は、隅棟先端部に粘土台を構築しこの上に切隅瓦を横置してレベルを調節し、この中央に隅巴瓦を横置してこの尻部を繫結線により

吊支し、その尻部に隅鬼瓦を積置してこの背面を後背の棟木の釘から緊結線により吊支するという極めて不安定な耐久性の低いものであった。

従来技術(2)は、この構成の一部を改訂した技術で、第7図(1)、(2)、(3)に示す昭和63年2月26日付実用新案登録願「固定構造を備えた隅端瓦」によるものであるが、これは隅棟先端部に粘土台10を構築してその上に対の切隅瓦Kを積置してレベルを調整し、この中央に隅巴瓦Yを積置してその背部を棟木8に達する釘止めにより固定して、隅巴瓦Yの尻部17上に隅鬼瓦Zを積置組み合わせて隅巴瓦Yとの間をボルトナット18により締結し、隅鬼瓦Zの背部を支持金具9によって棟木8に固定するものである。

[発明が解決しようとする問題点]

従来の粘土台を基盤とする工法は、粘土台の変形、割れ等があって切隅瓦他の正確な位置決め、姿勢の保持が困難で、作業技能的に多年の経験熟練を要するばかりでなく、降雨時凍結期には作業不能となるなどの天候上の制約も受け、また粘土

台の経時劣化、崩壊があって耐久性に乏しいものであった。

また、上述の従来技術(2)による、隅巴瓦Yの固定、隅巴瓦と隅鬼瓦Zとの締結、隅鬼瓦Zの固定で、大幅の改訂はなされたといっても、粘土台を使用することによる切隅瓦Kの不安定性、雨水の漏れ込みによる屋根基材の腐朽等の問題は根本的には解決されていない。

この発明は、粘土台を全く使用することなく、防水性シートによって製作された通水機能付隅端シートBを隅棟先端部に敷設し、中央突条5と切隅受座6とからなる瓦受台Cを設置して、切隅瓦Kその他各瓦を積設固定して、作業の簡易化、構成瓦の安定性耐久性等の向上のための根本的な解決をはかることを目的とする。

[問題点を解決するための手段]

この発明を、実施例の図面に基づいて説明すると次の通りである。

発明の実施例1は、隅棟先端部において広小舞13の設置によって生じる野地板12の面との屈

折部付近にモルタル11または粘土を置きレベルを調整した上に、第1図(1)、(2)、(3)および第4図(1)に示すように、防水性シート製の通水帯1とその両側端部に止水堤2を備えさらに裏面前端部に位置決めガイドとなる下縁突条3と表面に積木台4を設けた隅端シートBを敷設し、この上の棟列心に第2図(1)、(2)に示す中央突条5と切隅受座6を備えた瓦受台Cを第4図(2)に示すように積設して、これを隅端シートBとともに棟木8に達する釘止めにより固定する。なお、積木座4には野地板1の延長として通常積木を積置固定するが、切隅瓦Kの尻部裏面の形状によってはこの積木は不要となる。

次に、第4図(3)に示すように切隅瓦Kを切隅受座6に積置しレベルを調整して釘止め固定し、中央に第3図(1)、(2)、(3)および第4図(4)、(5)に示すように隅巴受Xを積置して、中央突条5を介し棟木8に釘止めして同時に切隅瓦Kを抑え固定する。

さらに、第4図(6)ないし(7)に示すように、

隅巴受Xの上に隅巴瓦Yと隅鬼瓦Zを積設し、以下上述の従来技術(2)の構造に準じて隅巴瓦Yの背部から釘止めにより中央突条5を介して棟木8に固定し、両瓦間を嵌合係止しボルトナット16により締結して、隅鬼瓦Zの背面と棟木8との間を支持金具9により支持固定するものである。

実施例2は、第5図(1)、(2)に示すように実施例1の隅端シートBと瓦受台Cとを、あらかじめ付加形成したものであり、その他の構成は実施例1と同様である。

実施例3は、第6図(1)ないし(4)に示すように一般的に使用される軒先の広小舞13によって生じる傾斜面屈折空間を埋めて、隅端シートBもしくはベース台座Dのレベル調整を簡易にするため、これらの裏面にスペーサー7を付加形成させておく構造のものであるが、これらは分離形としてそれぞれ別個に敷設してもよい。

[作用]

上述のように、それぞれの瓦が固定された構造であるので雨水侵入の恐れは殆どないが、もし万

あったとしても通水機能を備えた隔端シートにより屋根基材を濡らすことなく棟端外に誘導放出させ、切隅瓦は瓦受台と隅巴受の間に抑え固定されて、隅巴瓦も隅巴受の上に設定され安定となるばかりでなく、ベース台座を介して棟木に釘止め固定される。

隅巴瓦と隅鬼瓦との間の組み合わせ固定および隅鬼瓦の棟木に対する固定も、前述の実用出願の技術により安定した構造となる。

【発明の効果】

この発明によって、隅棟先端瓦の構成に粘土台を使用する必要がないので、施工も容易で未熟練者でも迅速正確に行なうことが可能となり、降雨凍結等天候の制約を受けることもなく、地震・風雨に対しても極めて安定で経時劣化もない高い耐久性が確保される。

4. 図面の簡単な説明

第1図(1)、(2)、(3)は、実施例1の隔端シートの斜視図、要部a-a断面図、要部b-b断面図、

2 ---- 隅鬼瓦

1 ---- 通水帯

3 ---- 下縁突条

5 ---- 中央突条

7 ---- スペース

9 ---- 支持金具

11 ---- モルタル

13 ---- 広小舞

15 ---- 釘孔

17 ---- 尻部

2 ---- 止水堤

4 ---- 棟木座

6 ---- 切隅受座

8 ---- 棟木

10 ---- 粘土台

12 ---- 野地板

14 ---- 釘

16 ---- 緊結線

18 ---- ボルトナット

特許出願人 有限会社 かわら技研

第2図(1)、(2)は、同瓦受台の斜視図、要部c-c断面図、

第3図(1)、(2)、(3)は、同隅巴受の斜視図、要部d-d断面図、要部e-e断面図、

第4図(1)ないし(7)は、同隔端シート敷設斜視図、瓦受台敷設斜視図、切隅瓦敷設斜視図、巴受敷設斜視図、要部f-f断面図、隅巴瓦敷設斜視図、総合組立構成断面図、

第5図(1)、(2)は、実施例2のベース台座の斜視図、要部g-g断面図、

第6図(1)ないし(4)は、実施例3のベース台座の表面斜視図、同裏面斜視図、要部h-h断面図、要部i-i断面図、

第7図(1)、(2)、(3)は、従来技術(2)による隅棟先端瓦総合構成斜視図、要部j-j断面図、縦断面図、である。

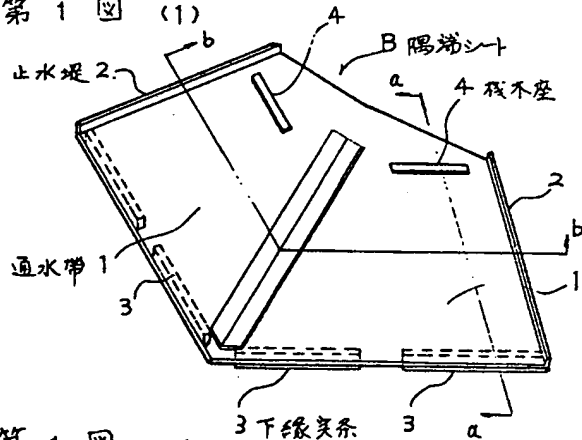
(主要部分の符号の説明)

B ---- 隔端シート C ---- 瓦受台

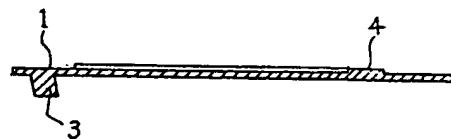
D ---- ベース台座 K ---- 切隅瓦

X ---- 隅巴受 Y ---- 隅巴瓦

第1図(1)



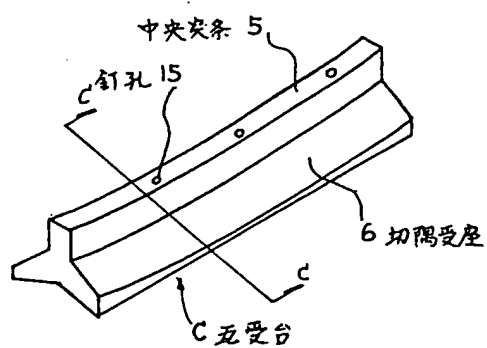
第1図(2)



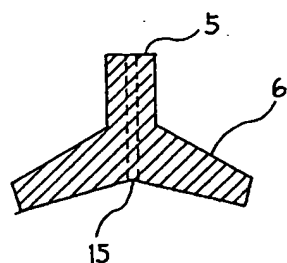
第1図(3)



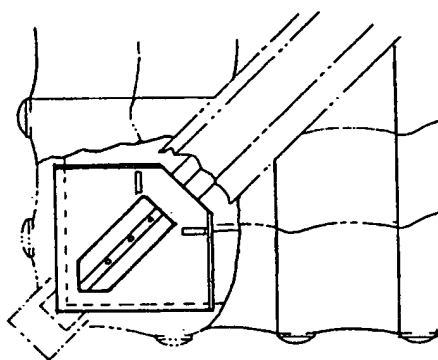
第 2 図 (1)



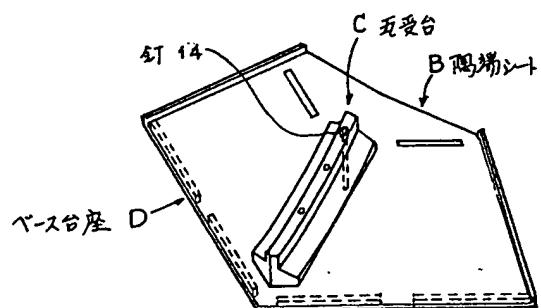
第 2 図 (2)



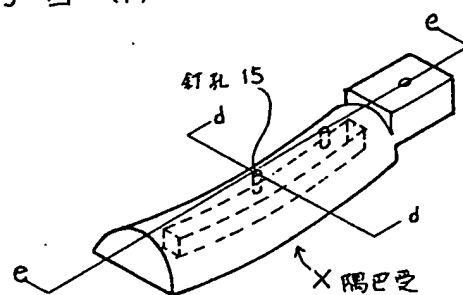
第 4 図 (1)



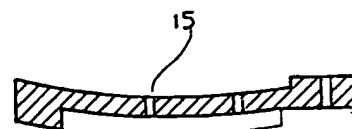
第 4 図 (2)



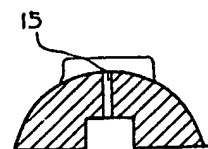
第 3 図 (1)



第 3 図 (2)

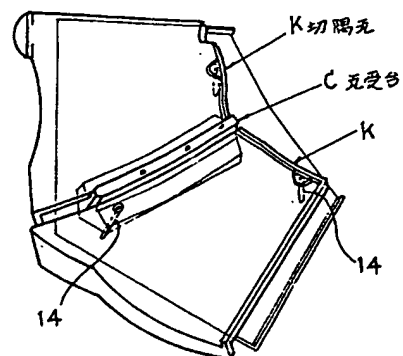


第 3 図 (3)

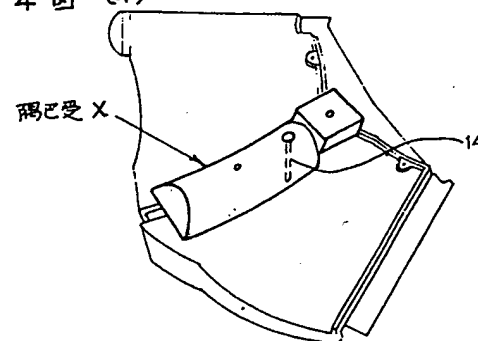


図面の符号

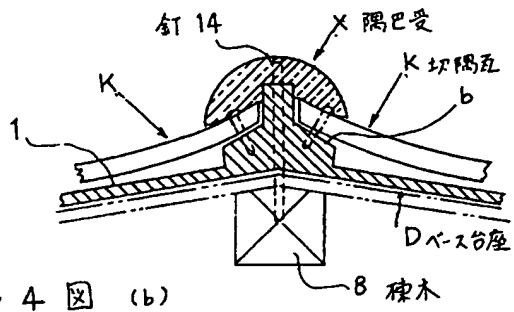
第 4 図 (3)



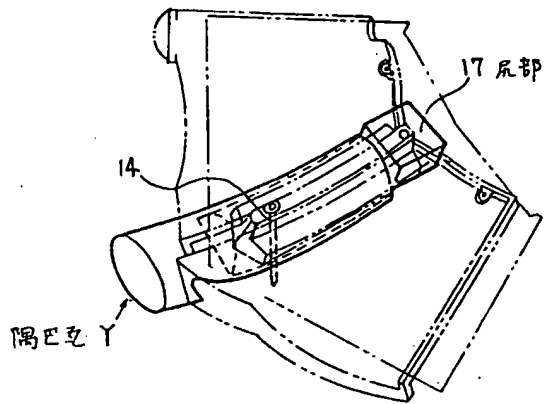
第 4 図 (4)



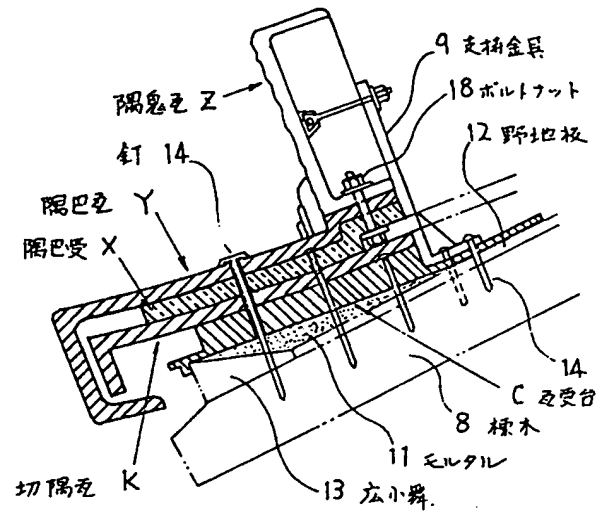
第 4 図 (5)



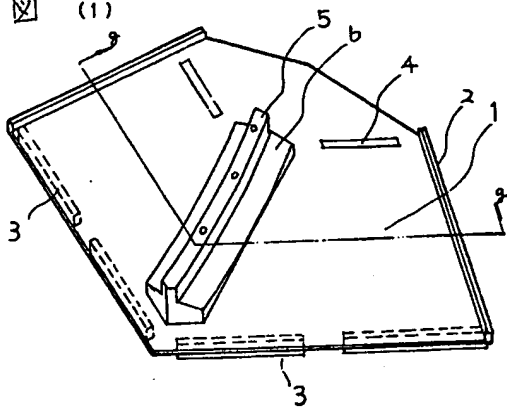
第 4 図 (b)



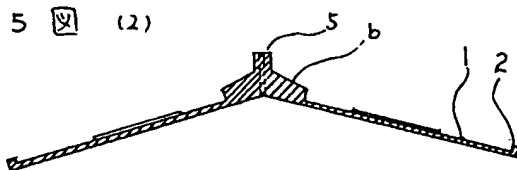
第 4 図 (7)



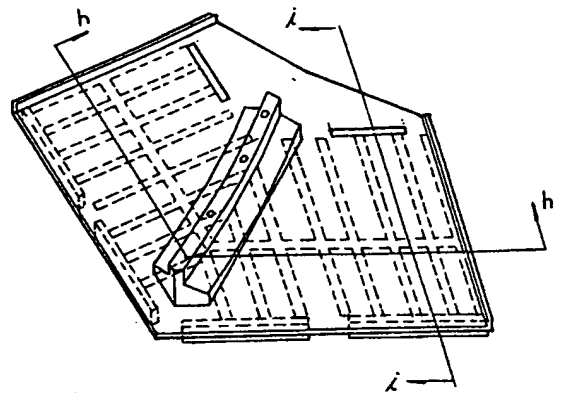
第 5 図 (1)



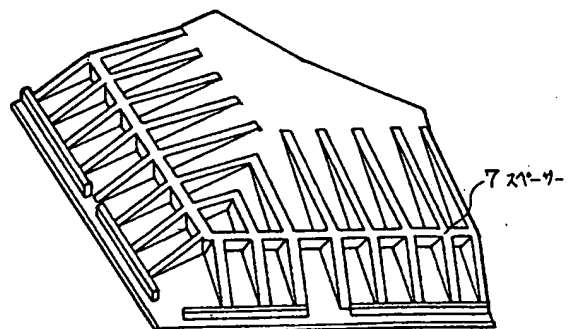
第 5 図 (2)



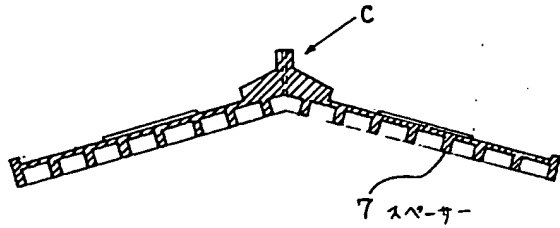
第 6 図 (1)



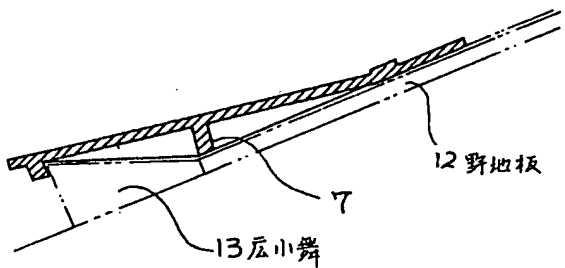
第 6 図 (2)



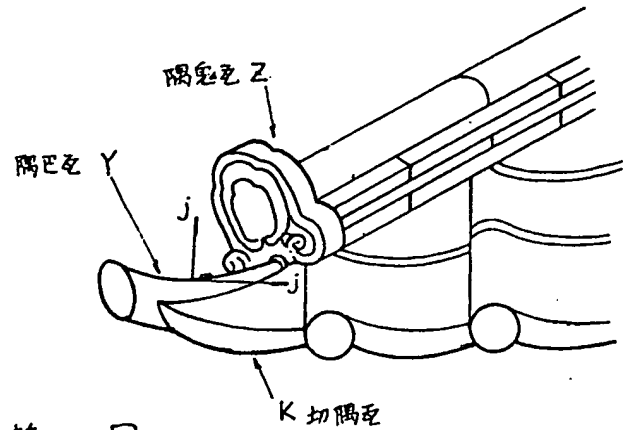
第 6 図 (3)



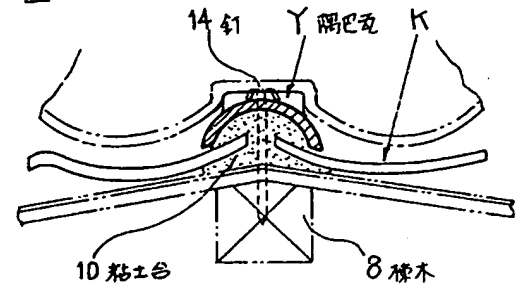
第 6 図 (4)



第 7 図 (1)



第 7 図 (2)



手続補正書 (方式)

昭和 63 年 06 月 14 日

特許庁長官

殿

適

1. 事件の表示 昭和 63 年 特許願 第 057630 号

2. 特許の名称 隅種先端瓦台座

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 (居所) 宮崎県宮崎市大島町平原 935 番地 5

氏 名 (名称) 有限会社 かわら技研

(代表者) 菊 場 嘉 人

(電話番号) 0985-24-1064



4. 補正命令の日付 (発送日) 昭和 63 年 05 月 31 日

5. 補正により増加する発明の数 なし

6. 補正の対象

図面

7. 補正の内容

第 4 図 (3), (4)

鮮明に浄書。 (別紙のとおり。)



第 7 図 (3)

